

福高はあなたの「**みらい**」を応援します！

文理科学科

文理科学科は「進学に特化した専門学科」です。難関大学や医歯薬系を目指したハイレベルな授業を展開し、「みらい学」において京都大学と連携し、論理的思考力、豊かな教養、発想力、問題解決能力を培い、日本や世界の「みらい」社会の創造と発展に寄与する人材の育成を目指します。これから、文理科学科のいろいろな取組を紹介していきます。

“正しい努力”を通じて自分の夢を実現しよう！

希望を胸に 平成24年度文理科学科第6期生43名が入学



4月10日、平成24年度福知山高等学校入学式が挙行されました。卒業した文理科学科の先輩たちの輝かしい進路実績を受け継ぐべく、希望を胸に第6期生43名が入学しました。

入学式では、坂根文伸校長が式辞の中で、高校生活の中で磨きたい四つの柱（①知性、②感性、③個性、④品性）を紹介され、また入学式後のホームルームでは担任の山室浩二先生（地歴公民科）が、「教員の指導のもと、各自が様々な経験のなかで試行錯誤して見いだすことのできる“正しい努力”を通じて、自分の夢を実現してほしい」と激励されました。新入生のやる気に満ちた眼差しが大変印象的でした。

＜文理科学科 第6期生（平成24年度入学）出身別中学校一覧（43名）＞

桃映	南陵	成和	六人部	日新	川口	三和	大江
1	7	7	4	4	2	1	1
綾部	豊里	城北	城南	青葉	加悦	江陽	
5	2	1	1	5	1	1	

自分の“夢”を実現！

京大・神戸大など難関大学に合格！

第3期生の進路実績

医学部医学科に現役で2名合格！

今春、文理科学科から3回目の卒業生が出ました。進学に特化した専門学科にふさわしく京都大学や神戸大学などに多数合格しました。また文理科学科では京都府北部の医療問題の解決に挑む人材の育成も目指しており、今春2名の生徒が国公立大学の医学部医学科に現役で合格しました。自分の夢を最後まで諦めない強い精神力で輝かしい進路実績を残しました。

＜文理科学科 第3期生 進路実績＞ 主な合格先（数字は合格延べ数）

◎国公立大学 21名合格

京都大学	1名	京都府立医科大学（医）	1名	香川大学（医）	1名	神戸大	2名
名古屋大	1名	東北大学	1名	北海道大学	2名	筑波大	1名

◎私立大学 66名合格

早稲田大学	7名	慶応大学	4名	上智大学	3名	立教大学	1名
同志社大学	6名	立命館大学	3名	関西大学	3名	京都薬科大学	3名

「みらい学Ⅰ」開講！

神戸大学教授による特別講義を受講し、農学分野の研究活動を開始

みらい学とは...

「みらい学」とは、福知山高校文理科学科独自の取組です。

1年生で履修する「みらい学Ⅰ」は、次のような内容です。

○大学や社会の最前線で活躍されている方々を講師にお招きし、特別講義を通して多様な学問に接します。

○講師の先生方から、それぞれの学問テーマに即した研究課題を与えていただき、その課題について、グループで研究活動を実践します。

このように「みらい学Ⅰ」では、さまざまな学問を体験し、研究手法について学ぶことを通じて自分の「みらい」（進路設計）を考えることを目的にしています。



4月14日、今年初めての土曜講座を利用して、第1回目の特別講義を開催しました。今回は神戸大学大学院農学研究科教授土佐幸雄先生に「大学における教育と研究—農学の視点から」というテーマで御講義いただきました。前半の講義では「日本から世界へ—そのためにはどのような力が必要か」についてお話されました。土佐先生は「基礎学力」を土台とした「観察力」と「創造力」の大切さ、具体的には高校生のうちに「基礎学力」である英語力・国語力・コンピューターを操作する力をしっかり身に付けることが大切だと力説されました。また後半の講義では生徒たちにグループで研究する4つの課題（農薬問題、TPPと農業・食料問題、エネルギー問題と原子力、震災からの復興をどう進めるか）を提示されました。生徒達は8班に分かれ、この課題のなかから1つを選び、これからの「みらい学Ⅰ」で研究活動に入ります。その成果を5月18日（金）、本校で行われる研究交流会でポスターセッションの形式でそれぞれ発表します。

私にとって「農」とは大変身近なものです。私の2人の祖母は野菜や米の栽培をしています。祖母たちは薬品について考え、無農薬での栽培をおこなっています。虫が菜を食べることや、上手に育たないという欠点はあるとしても、やはり、無農薬のほうがおいしいように思います。しかし、農薬を使うにも、また、農薬を使わない無農薬にしても、メリット・デメリットが存在することを知り驚きました。このようにして、私には今までに全く知らなかった知識があることや、「無農薬だけがよい」と感じそれらの本質を見失っていたことを知りました。農学とは人体に直結する学問です。生きるためには食料が必要で、食料が必要ならば農学が必要です。そこから分かるのは「生きるためには農学が必要である」ということです。小さな微生物、また、植物は日々変化し続けます。それに対応していくことが、私たちが生きるために必要であると感じました。

今後研究活動を進めるなかでは、まずは、その研究対象について「知ること」だと思います。知って、そして、疑問を持ち、また、創造する。その過程を踏んでいきたいと思っています。様々な意見を持ち、交流などを通じて、最終的には明確な理由を持った意見を考えていきたいです。今日一回の講義だけでも、かなり視野が広がりました。今後のみらい学が楽しみです。

梅原 菜々子（綾部市立綾部中学校出身）

